

様式1

令和5年度 学校評価表

自彊・至誠・夢



尾道市立高須小学校

学校教育目標	幸せに生きる力を育む高須小教育～Zest for Life～ 校訓：自彊・至誠・夢～	
a ミッション	中学校区で取り組む「志プロジェクト」の推進～自立・協働・創造～	a ビジョン 静と動の融合！頼れる教師！風格ある学校！ 「学びを変革する」、「連携・協働する」、「信頼・期待される」教職員集団

評価計画						自己評価				学校関係者評価			改善計画		
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h	i	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
						g 達成値	g 達成値	達成度	評価		イ	ロ	ハ		
主体性・協働性・表現力の育成 幸せに生きる力の育成		○基礎的・基本的な知識・技能を獲得し、見方・考え方を働かせて考え、表現できる児童の育成	○基礎学力定着のための授業改善 ○見方・考え方を働かせて表現する授業の推進 ○学習意欲を高めるモジュール授業の実施	○学力定着状況調査（国語科・算数科の正答率） ○国語科及び算数科の単元末及び学期末テスト（思考・表現力の項目）	昨年度以上 80%	国語 103.5 算数 104.4 国語 80.9% 算数 70.0%		国語 103.5 算数 104.4 国語 101.1 算数 87.5	B	・全国学力定着状況調査では、本年度は全国平均正答率を国語科・算数科の2教科とも上回ることができた。県平均正答率も同等となっている。前年度からモジュール授業の中で繰り返し計算・音読等行ってきたことが基礎学力の定着に結びついていると考える。 ・見方・考え方を働かせる授業の推進については、基礎的・基本的な知識・技能を「アイテム」とし、授業の中で確実に身に付けられるように取り組んだ。 ・モジュール授業では、年間30時間を教育課程に位置付け、児童に集中力や自己肯定感を育むことにより、基礎学力の向上をめざしている。国語では漢字学習、古典や詩の音読等、算数では計算練習等、短い時間で集中して学習する様子が見られる。	3		・児童と先生方の努力が数字に表れていると思う。 ・教職員同士の勉強会もすばらしいと思う。 ・基礎基本の定着と合わせて、本をたくさん読んで創造力豊かな子どもになってほしい。 ・全国学力調査が全国平均正答率を上回っていることはすばらしいと思う。 ・基礎学力の定着というのは簡単なことではないと思うが、身に付けることにより苦手意識を取り除くことができ、自信につながると思う。	・1学期に課題の残った単元については、復習を行い、定着を図っていく。 ・学年での教材研究を行い、アイテムを明確化し、国語科・算数科のアイテムを確実に定着させていく。 ・モジュール授業の内容を定期的に検討し、課題を克服できるような内容に改善する。	
		○集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成	○児童会執行部や各委員会、学級活動を中心とした児童主体の活動の計画及び実施 ○児童の良いところ・良い行動への肯定的な評価	○児童アンケート「自分から進んで当番や係活動に取り組んでいる」（肯定的回答の割合） ○児童アンケート「自分にはよいところがある」（肯定的回答の割合）	85% 90%	83.1% 88.3%		97.7 98.1	B	・児童アンケート「自分から進んで当番や係活動に取り組んでいる」という項目では、7月は目標値を達成することができた。係活動だけでなく、各委員会活動が取組を考えて実行したことが結果につながっていると考えられている。 ・児童アンケート「自分にはよいところがある」という項目では、7月は89%で目標値を達成することができなかった。1学期に児童の自己有用感を高める取組として「幸せの木」という取組を行った。数値の上昇は見られたが、目標値を達成できていないので、引き続き児童の自己有用感が高まる取組を考えていきたい。自己有用感が低い児童の傾向を見てみると、家庭で受けてもらう機会が少ない児童が多かった。今後は家庭とも連携を取り、児童が家庭でしっかりと受けてもらえる取組を進めていきたい。	3		・児童主体の活動を見守ってあげることができていると思う。 ・これから児童にいろいろなことにチャレンジさせてほしい。 ・ほめられると自信がもてて人にもやさしくなり、集団行動がうまくいくと思う。 ・人とのつながりを大切にしてほしい。 ・「学校に行くのが楽しい」、「自分には良いところがある」の児童アンケートで1割の否定的な回答が気になる。	・様々な取組を行っていく上で児童に取組の意義や目的が上手く伝わっていないことがあった。取組を行う際は生徒指導部でしっかりと意義や目的を押さえ、学年会などで確実に全ての教職員に周知する。 ・児童の自己有用感を高める取組をこれからも児童主体で進められるようにしていきたい。その中で、学校だけでなく、家庭を巻き込んだ取組を設定していきたい。 ・教職員は、児童への積極的に肯定的な声掛けを引き続き行っていく。その中で、ただ褒めるのではなく具体的に褒める、認めるなど「心に響く」声掛けを行っていく。	
		○友達と助け合い、励まし合いながら体力の向上を図るとともに自分の健康を考えた生活ができる児童の育成	○体力向上に関する授業改善	○児童アンケート「運動が好き」（肯定的回答の割合） ○児童アンケート「体育の授業で、できるようになったことや分かるようになったことがあった」（肯定的回答の割合）	80% 80%	81.9% 89.7%		102.3 112.1	A	・児童アンケート「運動が好き」という評価指標では、5～7月は目標値である80%を超えることができた。 ・児童アンケート「体育の授業で、できるようになったことや分かるようになったことがあった」という評価指標を6月から追加し、6月は80.8%、7月は91.4%で、どちらの月も目標値を達成することができた。 ・キーワード「できる喜び」を意頭におき「できるようになった」「分かるようになった」と、子ども達ができる喜びや達成感を感じられるよう意識して授業をしたことで目標達成できたのではないかと考える。 ・今後の課題として、数値化しにくいマット運動や球技等の様目の目標設定について工夫が必要である。	3		・体力に関してはかなり心配していましたが、学校の取組等を聞いて安心した。 ・プールも再開して、子どもたちも喜んでいてと思う。 ・体力をつけるためにも基本の「早寝・早起き・朝ごはん」を大切にしてください。 ・食生活の改善、生活習慣の改善等、難しいと思うが必要であると思う。	・2学期のキーワードを「ゴールの見える化」と設定し、取り組んでいく。 ・今後に向けて、水泳など各学年における体育科の授業の視点や課題を整理して、次の学年につなげていくようにする。	
		連組・協働・協働する	○学校全体でベクトルを揃えた学校運営の実現	○主任・主事を中心とした組織としての目標設定及び方策の進捗管理の実施	○教職員アンケート「学校運営に参画している」（肯定的回答の割合）80% ○教職員アンケート「学年会で意識統一したことを徹底している」（肯定的回答の割合）	80% 80%	76.7% 93.1%		95.9 116.4	A	・教職員アンケート「学校運営に主体的に参画している」の自己評価が難しかったため、6月から評価指標を「学年会で意識統一したことを徹底している」に変更した。その結果、教職員一人一人が取り組むべきことが具体化し、肯定的な評価をした教職員が93%となった。 ・学校全体で意識統一して取り組むことはできたが、その取組の意図や本質などを充分理解しているとは感じなかった。また、様々な対応が置れることが多かったため「相談しやすい雰囲気づくり」と「報告・連絡する時間の確保」が必要である。	3		・大規模校での児童の接し方等、いろいろな大変とは思いますが、あせらずゆっくりとがんばってほしい。 ・教職員の研修が活発になり、学校運営が向上すると思う。 ・地域・保護者と一丸になり、すばらしい学校にしていきたい。 ・教職員こそICTの積極的な活用をすることにより、効果的・効率的な運営ができると思う。	・取組の意図や本質を理解するために、学年部で児童の課題を明確にして取り組み方や指導方法を話し合い、目指す児童の姿をイメージしながら取組や指導を進めていく。 ・「報告・連絡・相談」を確実に行うために、学年部で1日のスケジュールを確認したり、1日の出来事を報告したりする時間を、一日の中で（朝または放課後に）確保する。（フチャ学年会） ・学年の取組について、学年主任を中心に「何を、いつまでに、どのように」するのかを具体的に話し合い、学年で重点的に取り組むことを学年のテーマとしてキーワードで示し、毎月のテーマに沿って自己評価を行う。

〔自己評価・評価〕
A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）＜80

B：80≦（ほぼ達成）＜100
D：（できていない）＜60

〔外部評価〕 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。